

今こそ「結（ゆい）」を育てよう！

牧野 直子

一番の環境破壊は戦争

今、ガザでは一時的な停戦合意の後、イスラエルとパレスチナの戦闘がまた開始され、とくに子どもたちの避難所になっている病院が狙われているということに心が痛みます。そして日本の新聞社の現地通信員の方の命が奪われました。2023年10月から始まったイスラム組織のハマスとイスラエル戦闘で死亡したジャーナリストは200人を超えているそうです。そして子どもたちも含めてこれまでに約5万人の犠牲者が出ていると報道されています。こういう新聞報道に心が折れそうになります。一番の環境破壊は戦争です。この戦争の一刻も早い解決を環境破壊の面からも願わずにはられません。

相次ぐ森林火災と巨大地震

ひるがえって日本では、岩手県大船渡の山林火災がようやく鎮火したと思うと、今度は愛媛県の今治、岡山や宮崎、そしてついに私たちの箕面の山でも火災が起き、すぐに鎮火してほっとしました。乾燥と強風が重なり、手入れされない山林が増えていることが原因とのこと。地球温暖化と少子高齢化が進んだ結果の一つではないでしょうか？

3月末にはミャンマーでマグニチュード7.7の地震が発生、沢山の方々が犠牲となっています。今年で阪神淡路大震災から30年、私たちも地震の恐ろしさを経験しているので他人ごとではありません。しかもミャンマーはクーデター以降、軍事政権下にあります。そこで暮らす人たちはどんな思いでおられることでしょうか。まさに「弱り目にたたり目」です。

環境保全の道すじはどこに？

地球温暖化の具体的なシミュレーションとして、海水温が上がり、台風が頻発して猛暑が来るということは1997年の地球温暖化防止京都会議(COP3)で予想されていたことです。あれから28年。温暖化

はどんどんすすんでいます。今年11月にはブラジルでCOP30が開催されるそうです。それぞれの国の利害を超えた議論が求められます。そして日本でできること、自治体レベルでできることを考えたいと思います。以前は箕面市では「ごみ減量フェア」というイベントが毎年メイプルホールで開催されていました。またクリーンセンターの見学会もあり、私たちが日常出しているゴミがどう処理されているのか直接見ることができたのですが、今はそのような行政の取り組みもありません。

今こそ、政府・地方自治体に「環境保全」への取り組みを強く求めたいです。

助け合いのシステムを育てよう

小売店が少なくなり、スーパーでの買い物が増えると当然ゴミが増えます。箕面の商店街もシャッター街になり、ずいぶん淋しくなりました。また買い物の仕方も変わりました。

しかし、いつも私が表現は違っていても言いたいのは、まずはゴミを出さないことです。これが「環境保全」につながり、環境破壊を抑え、「防災」に繋がるのだと思います。次世代に私たちのつけを残すわけにはいきません。

目の前に災害が迫っているかもしれません、今回の結通信では、「防災」の特集を組みました。いざという時に備えて体力をつけ、「あるものは活かそう！ないものは創ろう！」の精神で助け合いのシステムをみんなの力を合わせて育て、乗り越えて行きましょう。

今年度から地域カフェを復活させます、皆さんと直接お目にかかって「防災」の取り組み等一緒に考えてみたいと思っています。

